



村井知事が仮設住宅を訪問しました!

8月21日(火)に、知事の現場訪問があり、気仙沼市新月地区にある五右衛門ヶ原運動場、野球場、テニスコートの3カ所の仮設住宅団地を訪問しました。



訪問した3カ所の仮設住宅団地は、合わせて310戸の仮設住宅があり、当日は気温が30度を超える中、多くの住民の方にお集まり頂きました。

懇談会では、市、自治会、サポートセンター及び支援団体からの近況報告に対し、知事からは「皆さんの生活再建を最優先に県政運営に取り組んでいきたい。」との考えが伝えられていました。

介護予防体操を普及して地域づくりを目指します!

■ 介護予防普及サポーター養成講座(第2回, 第3回)

8月21日(火)に第2回、8月31日(金)に第3回の介護予防普及サポーター養成講座が開催されました。サポーターの養成は気仙沼市で行い、当所はその支援として参加しました。講座は全3回で最終日には、サポーターの皆さんに修了証書が交付されました。



サポーターの皆さんは、今後各地区で介護予防の普及活動をしてください。



お知らせ!

「ふかひれ通信」は携帯からもご覧になれます!



麻しん対策研修会を開催しました!

平成19年に全国の学校などで麻しん(はしか)が大流行しました。そのため宮城県では「宮城県麻しんゼロ計画」を策定し、麻しんの排除を平成24年度までに達成することを目標として取り組んでいます。その柱の一つとして、予防接種を受ける割合の目標を95%以上としていますが、震災の影響もあり管内の全体で80%前後となっています。

研修では、なぜ麻しん対策が必要なのかを確認し、どのように対応していくかを考えるよい機会となりました。

日にち:平成24年8月10日

講師:国立感染症研究所 主任研究官 中島一敏氏

テーマ:麻しん対策一例出たら即対応

～風しん対策も忘れずに～



現在は、麻しん・風しん共に海外から持ち込まれる場合が多いため、入ってくるウイルスに対し免疫があることが大切です。そのためには2回のワクチン接種を確実に受けることが必要と感じました。

<麻しん風しん定期予防接種対象者>

- ・1回目 1歳児(生後12ヶ月以上24ヶ月未満)
- ・2回目 小学校入学前の1年間
- ・中学1年生に相当する年齢の方(13歳)
- ・高校3年生に相当する年齢の方(18歳)

麻しんは感染力が強くて免疫の無い人は、ほぼ100%感染するし、1000人に1人は脳症になっていて、1000人に1人は死亡している怖い病気なんだって!

平成2年4月2日以前に生まれた方は、予防接種を1回しか受けていないひとが多いため、中1と高3も定期予防接種になっているんだって。ちゃんと2回の予防接種を受けようね!



みやぎヘルシー2012ふるさとスポーツ祭!

8月26日(日)に本吉総合体育館で「宮城ヘルシー2012ふるさとスポーツ祭南三陸教育事務所管内大会」が開催され、健康づくりコーナーを出展しました。

参加者の方には、体重、体脂肪、筋肉量を測定する「からだスキャン」、タバコの煙に含まれる一酸化炭素について体内に取り込んでいる量を測定する「マイクロスモーカーライザー」を体験しながら、適正体重や1日に必要な食事量、運動、喫煙の影響など健康づくりに関する啓発を行いました。



復興に奮闘！【リバーサイド春圃】 (介護老人保健施設)

医療法人くさの実会・介護老人保健施設リバーサイド春圃では、津波で被災したため近くの避難所に避難し、その後は避難所で入所者さんのケアにあたりました。被災直後はどうしてよいか分からない状況でしたが、震災の翌日には「口腔ケア」と「排泄ケア」に取り組みました。

口腔ケアでは、歯科医師に「すごくきれいです。」と褒めて頂きました。

排泄ケアは、避難所の隅のスペースに手作りで仕切りを作り、ポータブルトイレで介助を行いました。

避難所での介護は1年2ヶ月続き、難しい面も多々ありましたが、震災の翌日からこのような介護ができたことは職員の誇りになっています。



つらい気持ちが消えたわけでは無いですが、今年の5月からはプレハブの施設もできて、多くのボランティアさんにも来て頂いて、笑顔で毎日を過ごしています。

また、震災から学んだことも多くありました。避難までのマニュアルはあり、そのとおりできましたが、避難後については、マニュアルの定めがありませんでした。また、車いすでの避難訓練はしていましたが、瓦礫の中で車いすを押し訓練はしていませんでした。

現在では、施設の再建も決まり、新しい場所でも地域の皆様に愛される施設を目指して、スタッフひとりひとりが、まずは笑顔から見つめ直しサービスの向上に取り組んでいます。



食事は健康の基本です！

■ 食生活改善推進員育成研修会

8月20日(月)管内の食生活改善推進員を対象に研修会を開催しました。

食の安全安心をテーマに、「健康増進法に基づく食品表示について」と「放射性物質と食の安全性について」研修しました。

食生活改善推進員は、「私達の健康は私達の手で」をスローガンに活動を行っています。

今年度も各地区の公民館や仮設住宅集会所等で、「男の料理教室」「野菜を1日5皿食べよう講習会」などを実施していく予定です。



■ 特定給食施設等調理従事者研修会

7月31日(火)管内の特定給食施設等の調理従事者を対象に研修会を開催しました。

食中毒を起こさないポイントとして、適切な洗浄、消毒、手洗いの大切さなどを確認しました。

また、衛生管理として、健康診断の大切さ、健康管理のポイントなどについて研修しました。



精神保健医療福祉連絡会議を開催！

8月24日(金)に気仙沼保健福祉事務所管内精神保健医療福祉連絡会を開催し、関係各機関から現状及び今年度上半期の活動状況等が報告され、今後取り組むべき課題について共通の認識を持つことができました。



大変有意義な話し合いが行われ、今後も協力し合って活動を続けること、年3回会議を開催して継続して協議していくことが確認されました。

ふかひれさんの

マニアック食中毒予防講座

～菌を知って効果的対策～



今回は、『腸管出血性大腸菌』です！
(Enterohemorrhagic E.Coli) EHEC：イーハック
O-157:H7、O-26、O-111、O-145 など。

分布：健康な家畜の腸内にも常在している場合があり、牛では肝臓へ侵入する例が報告されている。糞便由来で土壌や井戸水が汚染される場合もある。

原因食品：未加熱の肉やレバー、生野菜、汚染された水など。

中毒症状：菌の作るペロ毒素により、出血性の大腸炎を引き起こす。6～8%の患者が溶血性尿毒症症候群(HUS)による腎障害や脳症などの合併症を引き起こし、死亡する場合もある。また、ヒトからヒトへ感染する。

予防方法：生肉の処理に使用したまな板、包丁などの調理器具は洗浄・滅菌する。使い回さない。
肉は中心部まで75℃で1分以上加熱する。
野菜類を生で食べる時は水道水でよく洗う。

編集後記

気仙沼といえばフカヒレですね！「ふかひれさん」は気仙沼保健福祉事務所機関紙の発行にあたって、皆様に身近に感じて頂き、保健・福祉・環境について、心にひっかかっている事があれば、気兼ねなくお話を聞かせて頂きたいという思いを込めた Mascot です。

はじめは皿の上の姿煮でしたが、オシャレにちんげんさいのリボンがつけました。

「ふかひれさん」ともども、皆様に慕われる気仙沼保健福祉事務所を目指して「ふかひれ通信」を発行していきたいと思っております。応援よろしくお祈りいたします。

『ふかひれさん』

ちんげんさいのリボンがお気に入りです。

